

食品摂取の多様性について質問する言語聴覚学専攻の学生と高校生

バランステストを受ける参加住民



健康測定会後、シクラメンの鉢植えをプレゼントし喜ばれました



「阿蘇プロジェクト」本学生と阿蘇中央高生が協働

フレイル予防へ第2回健康測定会

本年度第2回の「阿蘇プロジェクト：健康測定会」を5日（水）、阿蘇市の阿蘇中央高校で開催しました。フレイル予防を目的とした健康測定会は、阿蘇市在住の高齢者を対象としており、今回の健康測定会には37人が参加しました。

健康測定会では、言語聴覚学専攻の松原慶吾准教授を中心としたリハビリテーション学科教員9人の監修のもと、リハビリテーション学科2年生49人（理学療法学専攻16人、作業療法学専攻16人、言語聴覚学専攻17人）と阿蘇中央高校の生徒が協力して、フレイルに関する17項目

の検査を実施しました。

健康測定会後には、高校生が栽培したシクラメンと「阿蘇プロジェクト」と印字された箸置きが参加者にプレゼントされ、会場は笑顔に包まれていました。

本年度の健康測定会は今回で終了し、来年1月には今年度を実施した2回の健康測定会の結果をまとめた成果報告会の開催を予定しています。（健康・スポーツ教育研究センター 中村祐貴）

「熊保スポーツプロジェクト-for Youth-」

高校生80人にトレーニング法指導

熊本県内の高校生を対象とした「熊保スポーツプロジェクト-for Youth-」のうち、熊保スポーツゼミの本年度3回目を14日（金）、KMバイオロジクスアリーナで実施し、熊本西高校の1、2年生80人が参加しました。

前半はセンター所属の宮崎宣丞助教（理学療法学専攻）が、スピードの種類スプリントが速い人の特徴、スプリントトレーニングで意識するポイントなどについて講義。その後、本学のスポーツリハビリテーションコースの学生6人と大学院生3人が中心となり、トレーニング方法をレクチャーしました。

腹筋を使ったトレーニングでは、きつそうに顔をゆがめる高校生の姿が。すかさず本学の学生たちが近寄り、細かいポイントを教えたり、体を支えたりとサポートする様子も見られました。生徒たちは、終始笑顔でトレーニングを行い、今後の自主練習などに役立てられるよう知識を身につけていました。（健康・スポーツ教育研究センター 中村祐貴）



写真上下とも、トレーニングの方法をレクチャーするスポーツリハビリテーションコースの学生

日韓国交正常化60周年祝い多彩なイベント

文化交流フェスティバル 韓国文化研究クラブの活動も紹介

今年は、日韓国交正常化から60周年を迎える節目の年です。これを記念して、熊本市では「九州日韓文化交流フェスティバル2025」が10月25日（土）、26日（日）の両日、開催されました。

イベントでは、熊本県と韓国・忠清南道との姉妹都市提携42周年も祝われ、料理フェスティバルや和太鼓演奏、テコンドー演舞、K-POPライブなど、多彩なプログラムが披露されました。

特に熊本テルサホテルで行われた「日韓文化ステージ」では、木村県知事や忠清南道知

事が祝辞を述べたほか、本学と尚絅大学の学生による日韓交流の取り組みを映像で紹介。医療分野で国際的に活躍する人材の育成に取り組む本学の学生や、教育を通じて文化理解を深める尚絅大学の学生の活動など、地域から広がる次世代の交流の姿が印象的に映し出されました。

60年の節目を越え、これからの時代を担う大学生たちが、互いの文化を理解し合いながら新たな日韓交流を築いていくことが期待されます。

（理学療法専攻 申敏哲）

日韓文化ステージで紹介された本学「韓国文化研究クラブ」の活動



日韓文化ステージを支えた本学学生など学生ボランティアたち



閑話休題 高橋 元秀

破傷風

破傷風は、偏性嫌気性グラム陽性桿菌である破傷風菌（*Clostridium tetani*）が、土壌などの自然環境に存在する芽胞を介して創傷部から侵入することで成立する致死的な中毒性疾患である。人から人へ感染する病気ではない。人類だけでなく、ウマ、ウシ、ブタ、サル、イヌなど広く動物の感染例が報告されている。感染が成立し菌が増殖するためには嫌気条件下が必須であり、創傷治癒過程にあるわずかな痂皮や汚染組織でも菌の発育を促進する。

病態の主因は、菌が産生する強力な破傷風神経毒素である。この毒素により、全身筋肉の制御が崩壊し、開口障害（牙関緊急）後弓反張といった強直性痙攣へと劇的に進行し、適切な治療が遅延した場合の致死率は極めて高くなる。治療の鍵は、毒素を中和する抗破傷風ヒト免疫グロブリンの早期投与であり、早期診断が回復の条件である。

しかし、診断は特異的な検査法が存在しな

いため、病歴と臨床症状に依存せざるを得ない。臨床現場において明らかな外傷歴が不明瞭な症例報告があり、東京都の調査（2006年～2019年）では、園芸や転倒・打撲といった日常生活の行動が確認された一方で、患者の6割で感染経路が特定不能であった。

この致死的な脅威から身を守る唯一確実な手段は、毒素を無毒化した破傷風トキソイドワクチンの接種である。日本では1968年に定期接種が導入されたが、抗体保有率は年齢とともに減衰し、50歳以上の高齢者では著しく低下している。感染防御レベルとされる0.1 IU/mL以上の抗体価を生涯維持するためには、成人への追加接種が公衆衛生上の最重要課題である。ワクチン接種による抗体・免疫の維持こそ、命を守る唯一の手段・究極的な防御策と言える。

Prevention is better than cure.

（毒素・抗毒素共同研究室特任教授）

教職員の意識変革呼び掛け DX推進に向け研修会

DX推進室主催のDX推進に関する研修会が18日（火）、1501講義室Mで行われました。

冒頭、DX推進室長を務める古閑陽一特命副学長が、本学の基本方針や具体的な取り組みについて説明。その後、株式会社アネシス経営戦略本部DX戦略部の木下裕之氏と鳥巢友加里氏、黒木啓太氏より、DXとAI共創を進めていく上でのメリットや流れ、また本学のヒアリングを通して見えた課題に対しての対応についてプレゼンがありました。

プレゼンで木下氏は、住宅総合メーカーの同社が、DXに取り組むことになった経緯を説明。AIを駆使したラジオを作り、AIを身近に感じてもらうようにしたといった工夫や、ベテラン層になかなか受け入れてもらえなかったという苦労話も披露し、「今の学生はデジタルネイティブの世代。教育者はアナログのままでいいのでしょうか」と、

DX推進に向けて教職員の意識を変えることの必要性を訴えていました。（NL編集部）



本学のDX推進について説明を聞く教職員

本学使用の50%超が電子教科書 推進目指し研修会

DX推進室・FD委員会・情報保護委員会共催の電子教科書に関する研修会が17日（月）、1303講義室Mで行われました。

DX推進室長を務める古閑陽一特命副学長から、各学科専攻で使用されている教科書の50%以上が電子化されていること、また現在教科書販売を行う金龍堂からは、県内の看護専門学校での電子教科書導入割合が100%であることの説明がありました。その後、電子書籍の取り扱いを行うメヂカルフレンド社・医学書院から、商品の紹介や電子書籍のメリットとデメリットなどを紹介されると、「なるほど」と声をこぼす教員の姿もありました。

質疑応答では、留年時の取り扱いや卒業後の使用について、スマートフォンでも閲覧できるかなど、学生のことを考えての質問が多く飛び出しました。（NL編集部）



電子教科書の説明を熱心に聞く教職員

看護師としてのやりがいや成長伝える



図書館運営委員会主催の第75回「私の部屋でランチを」が6日（木）、キャンパステラスで開催され、認定看護師教育課程の認知症看護分野第6期生11人が演台に立ちました。

「笑顔と「らしさ」が紡ぐ、11通りの看護の未来」と題したトークは、県内外から集まった看護師たちの出身地のグルメ紹介コーナーからスタート。会場は一気にアットホームな雰囲気に包まれました。その後、看護師としてのやりがいや成長を感じた瞬間、認定看護師の役割や位置づけ、どうして目指すことになったのかなどを報告すると、参加者たちは真剣な表情でスライドと発表者を見つめていました。

発表後の質問コーナーでは、看護学科1年次生から「11月に実習を控えていて、認知症の方とのコミュニケーションの取り方を教えてほしい」「落ち込んだ時の対処法は？」「看護師になりたいのかわからなくなったときはありますか？」などの質問が飛び出し、発表者たちはアドバイスと温かいエールを送っていました。（NL編集部）

認知症看護分野第6期生



それぞれが勤務する病院の制服で演壇に立った発表者たち

早朝のキャンパスで 交通安全呼び掛け

自転車用ヘルメットの展示、試着も

学内交通安全運動が17日（月）～21日（金）展開され、早朝の学内で学生委員会の教職員と学友会の学生たちが交通安全を呼び掛けました

17日と19日（水）は、熊本北合志警察署の警察官2人も参加。教職員たちが中心となり、車やバイクで通学してきた学生たちに向かって「スピードを落として」「学内は20km以下です」など大きな声で注意を喚起していました。自転車通学の学生にヘルメットを着用するよう声をかけたり、駐車場から出てくる学生に向けて、交通ルールが書かれたチラシを配布したりと、今後も安全運転を心がけるよう呼び掛けていました。

一方、レストラン入り口には、自転車用ヘルメットの展示・試着コーナーが設けられ、ポスターやのぼりで着用を促していました。（NL編集部）



写真上は、学生にチラシを配り交通安全を呼び掛ける学友会メンバーと警察官。同下は、自転車用ヘルメットの展示・試着コーナー

银杏アラカルト

■菊池高生徒が模擬授業体験 県立菊池高校（菊池市）の2年生6人が11日（火）、本学を訪れました。一行は入試・広報課職員から本学の概要や学科・専攻についての説明を聞いた後、作業療法学専攻の松尾崇史准教授による模擬授業を受講しました。松尾准教授は、作業療法士の仕事や役割など、自身の経験を交えつつ紹介。序盤は緊張していた生徒たちも、軽妙な講義に時折笑い声を上げながら楽しく学んでいました。その後は学内の実習室などを見学。3時間の滞在時間を有意義に過ごしていました。（入試・広報課）



松尾准教授の模擬授業を受ける菊池高の生徒たち

熊本北合志警察署員の講話を聴く学生たち



■警察官招き交通安全講習会 交通安全講習会が19日（水）、50周年記念館であり、車やバイク、自転車に通学する学生たちが参加しました。登壇した熊本北合志警察署交通第一課の係長が、自身の経験を交えながら、大学や家の周辺などは気持ちが緩み事故を起こしやすいと指摘。その後、実際の事故の映像を見せ、気をつけるポイントや注意してほしいことなどを説明しました。そして、受講生に向け「素敵な大学生活を送ってください」とエールを送りました。（NL編集部）

インフォメーション

週間行事予定（11月25日～12月1日）

11/29（土）

チャレンジ熊保大！一般選抜対策講座